

研究論文について

(1) 研究論文の審査

本論文集の研究論文は、2段階（第一次審査、第二次審査）で審査を行った結果採用となったものである。審査は、1論文につき査読員2名により、審査スケジュールに則り行われた。なお、論文の条件は以下の通りとした。

住宅に関して、新しい課題として有効な知見を得たもの（設計・計画事例研究を含む）で、原則として未発表のもの

住宅に関して、大会学術講演会等で口頭発表したものを発展させたものや、何編かをまとめて一連の研究としたもので、まとまりのあるもの

地域の住環境の向上、住宅系まちづくりに貢献した設計・計画事例などに関する研究報告

(2) 審査のスケジュール

応募登録

「建築雑誌4月号」誌上「第2回住宅系研究論文報告会」の開催を告知し、研究論文を募集。

2007年5月18日 締め切り。応募総数42題。追加応募を受け付け。

2007年6月15日 再締め切り。追加応募22題。計64題。

研究論文投稿

2007年7月6日 投稿締め切り。応募総数45編。

第一次審査

2007年7月10日～7月30日 査読者による審査

2007年8月2日 第一次判定会議開催。採用2編、再提出35編、不採用8編を判定。

再提出投稿

2007年9月3日 再提出締め切り。再提出33編。未提出2編。

第二次審査

2007年9月7日～9月18日 査読者による再審査

2007年9月25日 最終判定会議開催。採用33編を判定。第一次審査と合わせて最終的な判定結果は、採用35編、不採用10編。

(3) 審査の概要

第一次審査

投稿論文（45編）の査読者による判定結果は、「採用+採用」2編、「採用+再提出」11編、「再提出+再提出」17編、「採用+不採用」1編、「再提出+不採用」13編、「不採用+不採用」1編であった。このうち、「採用+不採用」論文1編、「再提出+不採用」論文13編の計14編について採否の審議を行い、「採用+不採用」論文1編は再提出とし、13編の「再提出+不採用」論文は、6編を再提出、7編を不採用とした。以上の結果、採用2編、再提出35編、不採用8編とした。

第二次審査

再提出論文（33編）の審査員による判定結果は、「採用+採用」27編、「採用+不採用」6編であった。このうち、「採用+不採用」論文6編について採否の審議を行い、すべてを採用とした。また、再提出されなかった2編は不採用とし、これらの結果、45編の投稿論文は最終的に、採用35編、不採用10編となった。

(4) 報告会の運営

幹事(五十音順)

碓田智子(大阪教育大)
神吉紀世子(京都大)
齋藤広子(明海大)
鈴木雅之(千葉大)
根来宏典(根来宏典建築研究所)
安武敦子(駒沢女子大)

大沼正寛(東北文化学園大)
木内望(国土技術政策総合研究所)
鈴木浩(福島大)
高田光雄(京都大)
真野洋介(東京工業大)
吉田友彦(筑波大)

査読者(五十音順)

浅沼由紀(文化女子大)
大月敏雄(東京理科大)
神吉紀世子(前掲)
窪田垂矢(工学院大)
齋藤広子(前掲)
篠崎正彦(東洋大)
鈴木克彦(京都工芸繊維大)
瀬渡章子(奈良女子大)
田中勝(山梨大)
初見学(東京理科大)
藤岡泰寛(横浜国大)
森本信明(近畿大)
山崎義人(神戸大)

今井範子(奈良女子大)
岡絵里子(関西大)
木内望(前掲)
小林史彦(金沢大)
桜井康宏(福井大)
志村秀明(芝浦工業大)
鈴木浩(前掲)
高田光雄(前掲)
中島明子(和洋女子大)
伴丈正志(長崎総科大)
真野洋介(前掲)
安武敦子(前掲)
山崎寿一(神戸大)

碓田智子(前掲)
岡田知子(西日本工大)
北原啓司(弘前大)
小林秀樹(千葉大)
塩崎賢明(神戸大学)
杉山茂一(大阪市大)
鈴木雅之(前掲)
高見沢実(横浜国立大)
野澤千絵(東洋大)
檜谷美恵子(大阪市立大)
三橋伸夫(宇都宮大)
山根周(滋賀県立大)
吉田友彦(筑波大)